

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和元年度第1回加東市子ども・子育て会議
開催日時	令和元年7月24日(水) 午前10時00分から午前11時50分まで
開催場所	加東市役所301・302会議室
<p>議長の氏名 (会長 名須川知子)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】9人</p> <p>名須川知子委員 近澤孝則委員 藤井公子委員 衣川かおり委員 依兼計博委員 石井英昭委員 上西宏正委員 平川真也委員 安田末子委員</p> <p>【欠席委員】3人</p> <p>松本秀憲委員 高島純子委員 井上加奈子委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>アシスト株式会社 仲川武志</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育委員会</p> <p>こども未来部 こども未来部長 広西英二 学校教育課係長 森本恭央 こども教育課長 壺井初美 同副課長 稲岡めぐみ 同主査 金高将彦 同主事 森本紗知</p> <p>健康福祉部 福祉総務課長 大西祥隆</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>1 議題(議事)</p> <p>(1) 平成30年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について (2) 第2期加東市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果の報告について (3) 第2期加東市子ども・子育て支援事業計画骨子案の検討について</p> <p>2 会議結果</p> <p>(1) について 資料に基づき審議しました。</p> <p>(2) について 資料に基づき審議しました。</p>	

(3) について
資料に基づき審議しました。

3 会議の経過

- ・開会（事務局）
- ・開会挨拶（名須川会長）
- ・資料確認

【議事（1）平成30年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について】

《事務局から資料①、②、③、平成30年度加東市子ども・子育て支援事業計画進捗状況シートに基づき説明》

（会長）

待機児童は平成30年度で3人出ていたが、現在はどうか。

（事務局）

平成30年4月時点では3人出ていたが、5～6月にかけて、3人全ての方が希望していた園ではなかったが、入園されることとなり、待機児童は解消している。

（会長）

現在、待機児童はいないということか。

（事務局）

平成30年4月時点の待機児童は解消したが、平成31年4月時点で1人出ている。その児童は支援を必要とされているが、現状の職員では対応できなかったため待機児童となっている。現在も、対応できる職員が確保できていないため、そのままとなっている。

（会長）

平成30年4月に初めて待機児童が出たということで、この地域で待機児童が出るのは珍しいことだった。移り住んでくれる人が増えていることはありがたいが、待機児童はゼロになることが相応しく、今後も取組みを進めていただきたい。

「事業計画 進捗状況シート」の評価については、「○」がほとんどであったが、わずかであるが「△」もみられる。施策としては、全て「○」になることが相応しいはずである。

例えば、31ページ NO.58「育児休業・介護休業等の取得制度の定着促進」で担当課が人事課となっている施策については、目標値の人数を下回ったから「△」になっているのか。

また、34ページ NO.62「活動拠点づくり」で担当課が福祉総務課となっている施策については、拠点づくりに至っていないということで「△」になっているのか。

また、36ページ NO.66「連携強化」で担当課がこども教育課となっている施策については、「各機関が個別支援を行っている」ということで「△」になっているのか。

以上、分かる範囲で「△」となっている理由を説明してほしい。

(事務局)

NO. 62「活動拠点づくり」について「△」となっている状況について報告する。現状としては、民生委員等が中心になって地域の見守り活動などを行っていただいているが、一部の地域、東条地域においては主任児童委員、民生委員等が中心になって、子どもの読み聞かせというものに参加していただき、子どもの居場所づくりということで具体的な取組みが進められているが、滝野地域、社地域においては同じような取組みが進んでおらず、状況としては「△」という評価としている。

(会長)

今後、そちらの地域でも取組みが進められることとなっているのか。本日、主任児童委員の方にも出席いただいているので、意見をうかがいたい。

(事務局)

取組み自体を計画するのは市役所側であり、それぞれの委員と協力して、今後進めていきたい。

(会長)

ぜひ、東条地域で進められている同じような取組みを他の地域にも広げていただきたい。ページの右側には方向性も示されているが、「子育て家庭が孤立化しないように」とある。「孤立化」というのはキーワードでもあり、孤立化を防ぐ取組みとして、いい取組みであると思う。

(事務局)

36ページ NO. 66「連携強化」について説明する。既に保健センターや社会福祉協議会等の関係機関と連携強化は図っているが、さらに充実させていかなければならないということで、現状では個別支援されている方もいるので、そのような方とも連携を強化していく必要があると考えており、「△」としている。

(会長)

「連携」もキーワードの一つであり、それぞれの保護者が様々な支援を受けているなかで、支援を受けさせたいという方がいても、どこに、どうつなげていけばいいか分かりにくいということを実感している。今後、妊娠、出産から育児にいたるまで切れ目無いサポートを行っていく、医療関係者も関わり、一体となって行っていけるようになれば、きめ細かいサポートが可能になると思う。そうすることで「△」を「○」にしていけるような取組みを進めてほしい。連携することは、虐待防止にもつながるところもあるため、考えていただきたい。

(委員)

資料2の実績の数値について、例えば、資料②「3-1 一時預かり事業(幼稚園型)」については、計画が40人年とあるが、実績は4,762人年となっている。また、「3-2 一時預かり事業(幼稚園型を除く)」については、計画が1,431人年、実績が712人年、「5 子育て援助活動支援事業(ファミリーサポート事業)」については、計画が1,038人年、実績が509人年となっており、以上のように大きな開きがあることについて確認させていただきたい

(事務局)

計画の欄にある数値は、現行計画を平成27年3月に策定した際に設定した見込量である。当時、実施したアンケート結果等に基づいて算出したものとなっている。特に、

「3-1 一時預かり事業（幼稚園型）」については、その当時には実施されていなかったこともあり、利用希望も少なかったことから数値も小さくなっているが、実際に子ども・子育て支援新制度が始まりその事業を開始したところ、多くの利用があり、計画と実績で大きな乖離がみられる結果となっている。他の2つの事業についても同様である。ない、計画に比べて実績が少ないが、利用したい人はほぼ利用できており確保方策としては問題ないと考えている。

（委員）

数値について計画と乖離はしているものの、事業として確保できているということは分かった。小学校でもいろんな事業を進めており、見守り活動等については地域の方には大変お世話になっており、「110番の家」の掲示なども進めていただくことで、登下校時の安全確保にもつながっている。ただ、その上で、本年度に入って想定していなかったような子どもをめぐる痛ましい事件・事故が起きており、また、食育の推進という点でも、この地域だけでなく全国的な課題として新たに出てきている。課題はたくさん出てきているが、課題が増えていく分、より連携や分担を進めていくことが必要となり、それが子どもたちへのより良い支援につながると考えている。

（委員）

「事業計画 進捗状況シート」21ページ NO.40「休日保育事業」について、保育必要量の範囲内とはどういうことか。また、社こども園、さくら保育園で実施したとあるが、校区内の子どもだけでなく校区外の子どもも利用することが可能なのか。また、休日保育の利用者数はどのくらいなのか。

（事務局）

まず、認定された保育必要量の範囲内について説明する。保育園や認定こども園、幼稚園といった教育・保育事業を利用するにあたっては、市が支給認定を行う。その認定にあたり、保育認定となる2・3号認定については、月に利用できる日数というのを定めているが、その日数を25日と定めており、この利用日数を超えて利用する場合は、利用者負担が発生する。例えば休日保育を利用しても、通常保育の平日の利用をやめ、25日の範囲に収まっていれば利用者負担は発生しないということになる。

校区外の利用については、現状通常保育においても他の校区の施設を既に利用されていることもあり、休日保育についても同様に、校区外の方でも利用可能である。

休日保育の利用者数では、具体的な数値は把握できていないが、毎月1人以上は利用していると聞いている

【議事（2）第2期加東市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果の報告について】

《事務局から第2期加東市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告書に基づき説明》

（委員）

質問というより情報提供となるが、18ページの説明であったとおり、母親の就労日数が「6日以上」、帰宅時間が「20～21時」といった回答が少ないものの結果として出ている。このような結果から、子どもの孤食や居場所といったことに関係していることが考えられ、NPO法人では「子ども食堂」といった事業を実施し、対応を進めている。「子ども食堂」は貧困対策だけでなく、子どもが孤立していくことを防ぐ、居場所づくりといった点でも重要となっている。

そして、加東市内のゴルフ場の経営者から、「子ども食堂」を実施する方に対して500万円の寄付をいただき、それを原資として今後事業を始められる事業主に対しては、社協から一定の額を補助するように話を進めております。現在は社福祉センターでのみ活動されているが一回あたり20～30人の子どもが利用する状況となっている。できれば、加東市内の滝野地域や東条地域などへも広がってほしい。

(会長)

いただいた意見のとおり、貧困対策だけでなく、子どもの居場所づくりといった点からも、検討いただきたい。

5年前に実施した前回のアンケート調査にも関わっていたが、例えば、病後児保育施設については、当時のアンケートでも要望があり、実現につながったという経緯がある。このアンケートは見込量の算出にあたっての情報を整理するだけでなく、加東市の子ども・子育て支援にかかる要望として、今後実現につながっていくところもある。報告書には、アンケートで記入されていた自由意見が全て掲載されているが、多かった意見として子どもの医療費の無償化があるが、これは近隣の市では、医療費の無償化が実施されていることも大きいと思う。

たくさんの意見をいただき、耳の痛くなるようなものもあると思うが、これらの意見を十分に酌んでいただき、一つでも多くの意見が反映されるよう、関係部局が連携して、取り組んでいただきたい。

【議事（3）第2期加東市子ども・子育て支援事業計画について】

《事務局から資料④、⑤に基づき説明》

(会長)

9ページの転入増加の状況について、これは素晴らしいことだと思う。また、合計特殊出生率の1.68も驚異的な数字である。国としては、出生率は1.8にしていこうということを目指して、様々な施策を推進してきたが、うまくいっているものはなく、現状としてはほど遠い結果の1.45となっているにもかかわらず、加東市が1.68と高いことはアピールできる点であり、それを実現してきた施策についても評価できるところである。

18ページの教育・保育施設の現状について、幼稚園は兵庫教育大学の附属幼稚園のみがあるが、附属幼稚園は、補助金も出ず、法律上認定こども園化できないという事情がある。

また、市内には4か所の子育て支援拠点施設があり、人口4万人規模の自治体としては多いところである。そのようなことを記載してもよいのではないか。

(事務局)

18～19ページは「教育・保育施設」に絞ってしまったところがあるので、「地域子育て支援拠点事業」の現状についても記載するところを考えていく。18ページの分布図にまとめた方がよいか、別のページとして追加するかは改めて検討する。

(委員)

市ではいろいろな子育て支援に関する取組みが進められているが、昨今は、子育ての放棄や虐待といった痛ましい事件もよくあり、母親の問題も顕著となっている。子どもたちへの支援が充実していくことは喜ばしいことだが、育児をする母親の支援も合わせて行っていくこともお願いしたい。

(会長)

子育てをする母親に対し、子育て支援拠点事業で、母親教室のようなことも行っており、利用していただきたいと思う。

(委員)

そのような場所に出ていくことができる母親はよいが、子育てを放棄しているような母親は、そのようなところになかなか出ていけないのが現状である。子どもの貧困や学力の低下にもつながるところであり、そのような母親の支援が必要となるので、シルバー世代のボランティアなども活用していただくなど、支援につなげていくことができればと考えている。

(委員)

小さい子どもの保育等にもお金はかかるが、アンケート結果の自由意見にもあったようにアフタースクールについても費用がかかるから利用したくても利用できないという方がおられると聞いている。そのような方は家庭に様々な問題を抱えていることもあり、特に夏休みなど子どもが一日中自宅にいる場合などは問題が発生しやすいように思う。難しいと思うが、無償化についてはアフタースクールについても考えていくべきである。

(委員)

P T A会長としてみた現在の子ども現状として、例えばスポーツをするにしても、できる人とできない人で両極化が進んでいる。スポーツをしない、スポーツが苦手な子どもは、つまずいただけでも骨折といった大けがにつながるといったケースや、健康面では肥満といった問題にもつながっていく。また、自分の息子の友達にサッカークラブなどに入りたくても、ひとり親なので家庭の事情で入れないような子どもがおり、何とかしてやりたいと思うができることもない。また、今の子どもはゲームで遊ぶことも多いが、以前は友達で集まってゲームをしたりすることもあったが、今は通信機能を使ったゲームも多くなり、家から出なくなったということもある。また、その通信機能は友達同士でつながることが主であるが全く知らない世界中の人とつながれることからどんな相手と通信しているか分からないため怖いことだと思う。

(委員)

18ページの施設一覧をみたところ、西高東低といった印象を受ける。東条地域では南山地区の住宅開発も進み、若い人も増えてきていると思うので、このような地域にも施設が充実してくれればと思う。

子ども会の活動で、公民館の2階を解放して、特に制約することなく自由に遊ばせたところ、普段では見られないくらいに楽しそうに遊んでいたことがあった。このような取組みを夏休みなどの期間で週に1回くらい、学校がある時でも休日に月1回くらいなどの頻度で実施できればと思う。

(委員)

インターネットの防災ネットの情報を見ているが、不審者が出たという情報も時々見かける。防犯カメラの設置など、安全確保に向けた対策について検討してほしい。

《議事終了》

・その他
(事務局)

1点目、本年10月から実施される幼児教育・保育の無償化について、副食費等については無償化の対象外となっているが、近隣市ではそれらも無償化の対象とする動きもあり、加東市としても同様の施策を進め、在園児への支援を充実していくべきか、または、未就園児、自宅で育児を行っている方への支援を充実していくべきか。

以上のことにつきまして、各委員にご意見をお伺いしたいと考えている。

(本日の会議の場では特に意見が出ず、今後、改めて意見を伺うこととする。)

2点目、平成31年4月に開園した加東みらいこども園を会場として、「子育ても加東!～ファミリーワイワイフェスタ～」を開催予定。市内外の0～5歳児の子育て世帯を対象にワークショップなどを計画している。

3点目、委員報酬について、県・市等職員以外の方には8,000円を口座振込により支払う。

- ・閉会挨拶(こども未来部長)
- ・閉会

4 配布資料

- ・平成30年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況シート
- ・平成30年度子ども・子育て支援事業計画の進捗状況(教育・保育事業)…資料①
- ・平成30年度子ども・子育て支援事業計画の進捗状況(地域子ども・子育て支援事業)…資料②
- ・加東市就学前教育・保育施設一覧…資料③
- ・第2期加東市子ども・子育て支援事業計画の構成(案)…資料④
- ・第2期加東市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)…資料⑤

令和元年8月28日

会長 名塚知子

